

令和6（2024）年5月13日

保護者・生計維持者各位

東京学芸大学附属国際中等教育学校

PTA会長 前田 るり

講演会のご案内

「PTA 総会のご案内」に記載いたしました講演会をPTA総会に先立ちまして行います。今年度は総会同様5年振りの対面形式での講演会開催となります。授業参観後に会場へご移動いただき、ご参加を賜ります様どうぞ宜しくお願い申し上げます。そして是非何かひとつでも心に響く何かをお持ち帰りいただけましたら大変嬉しく存じます。以下、詳細をご案内申し上げます。

記

日時：2024年5月24日（金）午後2時30分から午後4時00分

場所：東京学芸大学附属国際中等教育学校（会場は後日決定）

対象：本校保護者

演題：「自転車世界一周の夢実現～夢の始まりは学校になじめないことだった～」

- ・世界は多様性に富んでいる
- ・おかげ様に生かされている自分
- ・自分をそして他人をリスペクトすることとは
- ・出逢うことのすばらしさ
- ・五感で感じる体験が感動になり、知識が自分のものになる
- ・どのように勤務先の社長や同僚(有給休暇で世界一周など)、家族を味方につけたか

講師：坂本 達（さかもとたつ）氏 《株式会社ミキハウス社長室 冒険家》

世界43ヶ国を4年3ヶ月で自転車世界一周/ギニアで井戸掘りや診療所の設立/
ブータンで幼稚園設立支援/坂本家世界6大陸大冒険(家族で自転車世界2周目)

入社以来、勤務先の社長を説得し、4年3カ月という異例の有給休暇を取得して単独自転車世界一周で5万5千キロ走破。

帰国後は著作物の印税でアフリカに井戸や診療所の建設、ブータンに幼稚園を設立。新卒採用の勤務の傍ら、国内外で講演活動続けること1400回以上。現在は小学校3年と5年生の子どもと理解ある妻とともに、夏休みを中心に毎夏約3ヵ月かけて自転車による「世界6大陸大冒険」に8年計画でチャレンジ中。

印税は全額、東日本大震災の被災遺児・被災孤児に寄付。

著作『やった。』は全国の高校英語のリーディング教科書に採択され続け、著書『ほった。』は2021年より、SDGsの達成を目指して中学生たちに知って考えてほしい題材として「東京書籍の中学3年生国語」の教科書に取り上げられました。



「恩返し」の井戸を掘る」に寄せて

坂本 達

こんな人生になるとは、中学生の時は想像もできませんでした。何事もやってみないと分からないこと、理解して応援してもらえ、と夢がかなうこと、自分の可能性は自分が思っているよりずっと大きいことなどを実感しています。

アフリカでの井戸掘りですが、私には井戸掘りの経験も知識もなく、NGOのような組織もない、たった一人でのスタートでした。現地のコミュニケーションは片言のフランス語。価値観の違いや、どうして分かってもらえないのだろうか？ という悩みから、途中で投げ出したいと思ったこともありました。

でも日本で応援してくれる人たちがいることを思い出し、改めてやりたいことを現地の人たちと共有し、少しずつ部族語を覚え、いっしょにイスラム教のお祈りをし、同じ食事を同じように手で食べ、ともに時間を過ごしているうちに、彼らが私を理解してくれるようになり、井戸掘りが実現に向かったのです。振り返ると、こうした信頼づくりにたくさん時間を費やしていました。結局、国籍、宗教、肌の色や言語を超えて、「相手の大切に行っていることを大切にすることで、自分や自分の考えが大切にされた」のだと思います。

井戸掘りでいちばんうれしかったのが、村人たちが自分たちで井戸を掘り、管理するようになっていったことです。最初は、外

国人の私が動くのをただ待つばかり。これはまずいと感じ、現地の人々が主体となって動けるような仕組みづくりに苦心しました。だからこそ「これは自分たちの井戸だ」という意識が芽生え、完成時に大きな喜びを分かち合うことができたのです。数年後に様子を見に行き、村人が井戸をきちんと維持管理しているのを見て、本当によかったと思いました。ただ物をあげるだけの支援では成しえなかった賜物です。

ギニアでの井戸掘りだけでなく、自転車世界一周も、「坂本家世界6大陸大冒険」も、多くの人に「無理」と言われ、最初は先の見えない不安ばかりでした。でも何事もやってみないと分からないし、やってみると意外にうまくできたり、いろんな人が助けてくれたりして、想像以上のこともできる。自分を信じて動くことでアイディアが浮かび、諦めないことで奇跡のような出会いもありました。不安のほとんどは、経験がないことや知らないことが原因だと思っています。私は大の自転車好きからこのような人生になりましたが、中学生の皆さんには、ぜひ自分の大好きなことや得意なことを生かして、自分の可能性を信じ、今の自分にできる精いっぱいチャレンジをしてほしいと思います。



筆者 坂本 達
一九六八(昭和四三)年、東京都出身、会社員、冒険家。
著書に「やった。やった。4年3カ月の有給休暇をもらって世界一周5万5000キロを自転車で走って
きちゃった男」などがある。
出典 「はった。はった。4年3カ月の有給休暇をもらって自転車で世界一周、今度はアフリカをみんちで井
戸を掘っちゃった男」による。

○筆者とギニアの人々との交流からどんなことを考えたか、話し合ってみよう。

メントに混ぜ、幼稚園くらいの子供までも砂利を集めて手伝った。女性も子供もお年寄りもみんなが汗を流した。彼らの「自分たちの井戸だ」という強い気持ちが伝わってくる。
僕は胸がいっぱいになり、関わった全ての人に感謝の気持ちを伝えたくなった。
僕がギニアをたつとき、シェリフは言った。「タツのおかげで村に井戸ができて本当に感謝している。でも、タツが毎年、僕たちのことを忘れずに会いに来てくれることが、実はいちばんうれしんだ。」
僕は、恩返しのためギニアを訪れていた

1 砂利 ▼しりり
11 滞 ▼たい
12 稚 ▼ち
新出漢字一覽 416 ページ

ノートと輪ゴムで留めた現金の束を見て、僕は感動で鳥肌が立った。現金収入がほとんどないこの村で、どうやってこんなにお金を集めたのだろう。みんなの本気が伝わってきた。
二〇〇四年十二月、いよいよ井戸の工事が始まった。職人たちは素手でつるはしを握り、岩盤のように硬い地面を黙々と掘る。直径一・四メートルの穴を、初日は深さ七十七センチまで。これを二十メートルの深さまで掘ろうというのだ。根気のいる作業である。僕は数日間、村に滞在し、村人といっしょに井戸掘りを手伝った。
二〇〇五年五月、掘り場を訪れた僕は、それまでになかった、りっぱな井戸を見つけた。「水が出た」という報告は、日本で受けていたが、まだ信じられなかった。坂道を転がるように下り、セメントで固められた深い井戸をのぞき込む。底には透き通ったきれいな水がたっぷりとたまっていた。本当にできたんだ。
村人の代表が、井戸に取り付けた手押しポンプを上下に動かす。ギツ、ギツ……。みんなが

息をのんで見守る中、ついに透明な水が出た！
僕はみんなに握手をして喜びを分かち合った。子供たちは、不思議そうにポンプの先から出る水を見つめている。村人たちの笑顔。特に女性が手をたたいて喜ぶ姿がうれしかった。
この井戸は、村人総出の手作りしてきた井戸だ。子供たちが車の入れる道を切り開き、職人たちが朝から晩まで掘り続け、村人がバケツで土を運び出し、女性が川から運んできた水をセ

のだが、シェリフや村人たちに心からもてなししてもらい、水や命の大切さ、家族の大切さ、分け合うこと、みんなで作るあげること、感謝の気持ちなど、本当に大切なことにたくさん気づかせてもらった。
水や葉があるからといって豊かになるわけではない。逆に彼らから豊かさについて教えられているような気がしてならない。僕が日本で自分の体験を語ったり、豊かさについて子供たちと考えたりすることも、恩返しの一つだと思う。これからも出会った人に感謝しながら、恩返しを続けていきたい。



老若男女を問わず、みんなが働いた



筆者とシェリフ(前列左から3、4人目)とドンゴル村の人々



6 つるはし 硬い土を掘り起すための道具
16 セメント 主に石灰石や粘土などから作られる粉、水を加えて練ることで固まる、コンクリートなどの原料。